

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
(1) みんなが支え合う豊かなコミュニティづくり						
① 地域ごとの小地域福祉計画づくり						
A 地域座談会等の開催支援 【保健福祉課(地域福祉)】	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増進型地域福祉の考え方を取り入れた課題の話し合いから理想とする状態の実現に向け、地域の多様な主体が話し合う地域座談会を全12地域で開催し、地域課題の解決やニーズの実現のためのイベントを実施し、地域の理想の姿の実現に向け支援していく。</li> <li>・地域の課題解決策・地域福祉推進策を地域の多様な主体が集まり話し合える場の定着を支援していく。</li> </ul>	<p>【総括】</p> <p>区地域福祉ビジョンの計画期間(令和3(2021)年度から令和5(2023)年度)において、区内全12地域において地域座談会を開催することを目標としていたが、令和3年も新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出され、令和4年も引き続き行動制限が出されるような状況が続いた。地域座談会は、地域の多様な主体が参集し、地域の課題やニーズ、そして理想の姿を話し合う場であり、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置、行動制限が出されている状況下では、感染予防の観点から開催が厳しい状況である。このように令和2年より感染症が拡大した新型コロナウイルスの影響により計画期間内に全12地域での地域座談会は達成できなかった。そうした状況の中ではあるが、東粉浜地域において地域座談会コアメンバー会議を開催。令和元年度開催した地域座談会での議論に基づき、地域の子どもたちの顔が見えるイベントの実施に向け検討が進められ、令和4年10月30日に“東粉浜ハロウィン仮装大会”が開催されました。また、山之内地域からは、地域活動協議会の構成団体だけでなく地域の多様な主体を巻き込んだまちづくりを進めていくうえで地域座談会の開催が必要とのご意見をいただき、令和5年2月に地域の主要メンバーと再開と開催形式について検討し、進めていくこととする。</p>	B			
B 小地域福祉計画の支援 【保健福祉課(地域福祉)】	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の取りまとめた課題解決策・地域福祉推進策を遂行するための計画づくりについて支援する。</li> <li>・また、出来上がった計画の実行を支援する。</li> <li>・計画期間内に、地域座談会の議論を経て6地域において「小地域福祉計画(ビジョン)」を策定する。</li> </ul>	<p>【総括】</p> <p>小地域福祉計画は、地域座談会で出された地域の課題やニーズ、さらには地域がめざす理想の姿の実現に向けた取り組みを小地域福祉計画(ビジョン)として策定するものです。令和2年より始まった新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、地域座談会が開催できなかったことから、ビジョンの計画期間(令和3(2021)年度から令和5(2023)年度)に当初目標である6地域のうち5地域で策定議論ができなかった。そうした状況下ではあるが、墨江地域では令和2年6月より地域座談会から地域独自で墨江地域福祉会議(地域のコアメンバーと包括、介護事業者等が参画し、地域福祉について話し合われる場)を立ち上げられ、令和3年より地域福祉ビジョンの策定について話し合わせ、11月12日開催のケアマネ交流会において地域の課題や地域のめざすべき理想の姿について話し合われた。この議論を受け、引き続き墨江地域福祉会議で地域課題の解決や理想の姿実現への取り組みについて話し合わせ、「墨江地域福祉ビジョン」の素案を取りまとめられた。令和4年度は素案に基づき成案に向け議論を続けられた。</p>	B			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
② ご近『助』福祉と居場所づくり						
A ネットワーク会議の開催支援 【区社会福祉協議会】	<p><b>【到達目標】</b> ・withコロナからコロナ前の活動へ。地域福祉活動が地域で実施できている。また、コロナ過で生まれた活動や工夫（ICTの活用他）を定着させる。</p>	<p><b>【総括】</b> 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され、令和4年もコロナ禍が続き、感染者数も増減を繰り返していた。 他区では小地域福祉活動がストップすることが多かったが、住吉区内では小地域福祉活動について何とか継続をしようと工夫し、実施をされていた。ネットワーク会議の開催はコロナ禍で開催が難しい中ではあったが、様々な感染対策を行い、ほぼ予定どおりのネットワーク会議を開催することができた。また、集まったの会議開催が難しい場合はICTを活用し、ZOOM等で会議の開催を行った。小地域での福祉活動を工夫して実施していただいた地域が多かったため、会議の内容についてもこれまでの地域の活動等の報告だけでなく、コロナ禍での事業開催の方法についてや感染対策など様々な工夫を話し合えた。共有内容を地域の活動に活かしていただいた。</p>	A			
B 食事サービスやふれあい喫茶などの開催情報の発信 【地域課】	<p><b>【到達目標】</b> ・各地域での食事サービスやふれあい喫茶などの開催情報を広報すみや区ホームページで周知をおこない、誰もが気軽に参加できる状況をめざす。</p>	<p><b>【総括】</b> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催中止となった地域について、区社会福祉協議会やまちづくりセンター等と連携し、情報収集を行い、迅速なホームページの更新に努めた。今後は、ホームページだけでなくSNS等でも活動の様子などを周知していく。</p>	A			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
(2) 支援が必要な人々へのつながりづくり						
① 身近な地域での相談体制の構築						
A 地域と専門職のネットワーク強化 【区社会福祉協議会】	<b>【到達目標】</b> ・各地域で行われている食事サービス・ふれあい喫茶等の場や住吉区地域見守り支援システムにおいて、各地域で開設されている地域支援事務所へ地域包括支援センターやCSWが出張相談等を行うことを支援し、ネットワークの強化を進める。	<b>【総括】</b> 地域のふれあい喫茶や地域のイベントなどで出張相談会を行った。出張相談会の会場としては、神寺や金融機関など新たな場所の開拓を行うことができた。出張相談会の開催までのプロセスを通じ、地域関係者と状況を共有する好機会となった。出張相談会は広報啓発活動も兼ねながら気軽に相談できる機会となっていた。	A			
B 地域支援事務所の窓口機能・拠点機能の充実 【区社会福祉協議会】	<b>【到達目標】</b> ・地域支援事務所を相談のもちよりどころ、専門職、関係機関の橋渡しの拠点として機能充実を支援し、身近な地域での相談体制の整備を進める。	<b>【総括】</b> 地域支援事務所が地域の活動者からの相談のもちよりどころになっていたり、橋渡しの役割を果たしている地域もあれば、まだ活動者からの相談が少ない地域もある。地域見守り支援システム検討会で事務所の在り方の検証を行いながら、地域の特性にあった事務所の在り方について議論をしていく。また、専門職への周知、地域支援相談員のスキルアップをはかっていく。	B			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
②子育て世代の孤立防止						
A 「はぐあっぷ」事業の継続実施 【保健福祉課(子育て支援)】	<p><b>【到達目標】</b> 住吉区では、すべての子どもが健やかに成長できる地域社会を実現するため、子育て相談室と保健分野(健康推進・健康相談)が連携し、一体的な子育て支援体制を強化した「住吉区子育て世代包括支援センター」、愛称「はぐあっぷ」の取り組みを平成30年度より実施している。 具体的には、妊娠期から就学前までの相談体制や関係機関との連携を強化し、切れ目のない子育て支援で子育て家庭をサポートしていく。</p>	<p><b>【総括】</b> 「はぐあっぷ」の主な取り組みとして、①子育て世代包括支援センターの機能強化、②子育て力向上のための啓発・講座等の開催、③貧困の連鎖を断ち切る取り組みなどを行ってきた。 上記取り組みを、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、感染対策の徹底や実施方法の創意工夫等により、妊娠期から就学前までの期間に継続的に実施することで、切れ目のない子育て支援を子育て家庭に提供することができた。 なお、令和4年度が「重大な虐待ゼロ」に向けた重点取組(市長重点予算)の最終年度となることや、区独自事業として展開している「はぐあっぷ」関連事業も開始以降3年以上経過していることから、この間の取り組みから把握された課題や国の動向等を踏まえ、「はぐあっぷ」再編案をとりまとめ、令和5年度の「はぐあっぷ」相談体制の充実強化並びに区独自事業の再編成を行った。引き続き、再編された「はぐあっぷ」事業を着実に実施していく。</p>	A			
B すみちゃん「こども・子育て安心」見守りネットワークの推進 【保健福祉課(子育て支援)】	<p><b>【到達目標】</b> 住吉区では、「重大な児童虐待ゼロ」に向けた重点取組(市長重点予算)として、こども・子育て世帯に関わる区内関係機関や地域団体等の関係者が、幅広く連携することによって、支援を要するこどもや子育て世帯に早期に気づき、必要な支援に繋がれるよう、すみちゃん「こども・子育て」見守りネットワークを発足させた。 ・支援を要するこどもや子育て世帯に早期に気づき必要な支援に繋がれるよう、こども・子育てに関わる関係機関や地域団体の連携の推進を図る。 ・地域をあげて、こども・子育て世帯の安全・安心を見守る全区民的な機運を醸成するため、啓発用ハンドブックの作成や研修会・講演会を実施する。</p>	<p><b>【総括】</b> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度には研修会を開催することができなかったが、令和3年度・4年度と連続して自らSOSを発することが少なく周囲の気づきが困難な事案が多いヤングケアラーに関する研修会を開催することができた。 ・啓発用リーフレットについては、令和2年度にはこどもや子育て家庭に対する気づきや見守り支援の心構えや関係機関の連絡先等、令和3年度にはヤングケアラーに関する理解と支援等、令和4年度には子育て相談室における相談内容や各種相談窓口の連絡先等、についてそれぞれ作成し、区内の関係機関や地域団体等に配布した。 ・上記の取り組みによって、支援を要するこどもや子育て世帯に早期に気づき、必要な支援に繋げることなど、地域における見守り活動が一層促進されるものと考えている。なお、令和5年度についても「重大な虐待ゼロ」に向けた重点取組が継続される予定であり、地域をあげてのこども・子育て世帯の安全・安心を見守る全区民的な機運の一層の醸成に向けた取り組みを進めていく。</p>	A			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
B…目標又は目標相当を達成できた  
C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
C こどもサポートネットの継続実施 【保健福祉課(子育て支援)】	<p><b>【到達目標】</b> こどもサポートネット事業は、小中学校において、学校生活や家庭生活・家庭環境、経済的困窮等の課題を抱えたこども及び子育て世帯を発見し、区役所における支援チームと連携して、保健福祉の支援制度や地域資源の適切な支援につなぎ、社会全体で総合的に支援する取り組みである。</p> <p>具体的には、区役所にスクールソーシャルワーカー2名、こどもサポート推進員4名を配置し、学校や区役所等の関係機関が連携して、支援の必要なこどもや子育て世帯を総合的に支援していく。</p>	<p><b>【総括】</b> ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年3月全国の学校が一斉休校となり、その後も学校は感染対策の徹底等非常に繁忙な状況であったが、各学校の協力により、準備が整い次第スクリーニング会議Ⅱを開催することができ、支援の必要なこどもや子育て世帯にアセスメントを行い、必要な支援を行うことができた。その後もコロナ禍の困難な状況にも関わらず各学校の努力により定期的にスクリーニング会議Ⅱが開催され、必要なこどもや子育て世帯への支援などの取り組みを行うことができた。</p> <p>・令和3年度より、区独自配置のスクールソーシャルワーカーとこどもサポートネットスクールソーシャルワーカーを一体的に運用するとともに、支援の必要なこどもの割合等により選定された学校に拠点配置することなどにより、教職員がスクールソーシャルワーカーに相談しやすくなるとともにスクールソーシャルワーカーも支援の必要なこどもに気づく機会が増えるなど、効果的な運用に努めた。</p> <p>・令和5年度にはヤングケアラー支援強化によりスクールソーシャルワーカーが増員される予定であり、この間の取り組みを踏まえ、より一層効果的な運用に努めていく。</p>	A			
D 「地域の拠点づくり・潜在的リスクへのアプローチ」事業の実施 【保健福祉課(子育て支援)】	<p><b>【到達目標】</b> 「重大虐待ゼロ」に向けた重点取組(市長重点予算)として、子育て世帯の身近な相談の場を確保するとともに、見守りが手薄な対象へのアプローチを行い、潜在的リスク把握と必要な支援に繋げることで、虐待による死亡事案など「重大虐待ゼロ」の状態を維持する。</p> <p>・具体的には、地域の拠点に子育ての専門職(保育士・看護職など)が定期的に巡回し、こどもや子育て世帯を見守る地域ボランティアへの情報提供を通じ、地域における支援力向上を図る。</p>	<p><b>【総括】</b> 令和2年度より新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染防止のため子育てサロンが中止になるなど、地域における子育て支援の取り組みが中断される事態となったが、緊急事態宣言の解除等に伴い、子育てサロン等が順次再開される状況を受けて、各地域に「子育て何でも相談会」の実施に向けた協力を依頼し、現在全地域で相談会の定期的開催や子育てサロン、つどいの広場、保育所・幼稚園等への巡回相談を実施している。また、令和3年度より、地域の見守り支援事務所への専門職の巡回を順次開始し、支援が必要なこどもや子育て世帯の情報を地域と情報共有するなどにより、支援に結びつけにくいこどもや子育て世帯にもアプローチする取り組みを実施している。</p> <p>・2歳6か月児を対象に、全家庭への質問書等を送付するなどポピュレーションアプローチを実施している。</p> <p>・令和5年度についても「重大虐待ゼロ」に向けた重点取組が継続される予定であり、引き続き子育て世帯の身近な相談の場の確保並びに見守りが手薄な対象へのアプローチ等の取り組みを進めていく。</p>	A			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
③専門機関の連携強化						
A 「総合的な支援調整の場(つながる場)」の活用  【保健福祉課(つながる場)】	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援関係機関や地域住民等の連携により課題の解決に資する支援が包括的に提供されるよう、「つながる場」で情報共有や課題の共通認識を図ることを通じて分野職種を横断した専門職のつながりを強化し、相談支援体制の充実を図っていきます。</li> <li>区内関係機関の協力を得て、埋もれたケースの発掘に努める。</li> </ul>	<p>【総括】</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出等により支援関係機関や地域住民等の連携の機会が少なくなり、つながる場会議の開催が少なくなった。しかしながら、相談のあったケースについては、スムーズにつながる場会議を開催し、過去の継続ケースについても現時点の状況を確認し、今後の開催の可否を判断した。また、支援機関の情報を掲載した「住吉区相談支援ガイドブック」を作成し、協力関係機関との横のつながりを強化する取組みを行った。</p>	C			
B 子ども若者育成支援事業の継続実施  【保健福祉課(つながる場)】	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不登校や引きこもりで悩んでいる子ども・若者や就労に自信の持てない若者を対象に相談に応じ、大学生や地域のボランティアの協力を得ながら、若者をサポートするネットワークを組織し自立の支援を行っていきます。</li> <li>不登校やひきこもり等で悩んでいる子ども・若者を掘り起し、相談事業に繋げるなどにより継続的な支援を行なう。</li> </ul>	<p>【総括】</p> <p>コロナ禍の中で不登校や引きこもりの若者が増加するとともに、これまで引きこもっていた若者の状態の深刻化が見受けられる状況において、相談枠の拡充をはじめ、切れ目のない継続した支援として、他機関での支援が年齢制限などにより満了する者に対して、対象者やその家族の同意による事前登録を開始した。また、社会福祉施設と連携し、比較的ゆるやかな就労の受入れ先の開拓や対象者とのマッチング・コーディネートを実施するなど、不登校やひきこもり等で悩んでいる若者や就労に自信が持てない若者が、社会生活を円滑に営むことができるように取組みを拡充することができた。</p>	A			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
④ つながり・みまもり・支えあいシステムの構築	<p>A 区実務者代表者会議等を活用した包括的な支援の実施</p> <p>【保健福祉課(地域福祉)】</p>	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区内関係機関が連携して包括的な支援を行えるよう、課題の整理・分析を行う。</li> <li>関係者で課題を共有し、包括的な支援につなげられるよう、区実務者代表者会議等の活性化を進める。</li> <li>区実務者代表者会議の運営要綱を策定し、年1回定例開催する。</li> </ul>	<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉コミュニティづくりには、住民同士の支えあいだけでなく、区役所や関係機関、地域にある学校等、あらゆる資源が協働し区全体として地域福祉の推進に取り組むことが重要である。そうしたことから住吉区では「つながり・みまもり・支えあいシステム」の構築をめざしています。「つながり・みまもり・支えあいシステム」が実効性のあるシステムとなるよう区実務者代表者会議等を活用し、区内関係機関が連携して包括的な支援が行えるよう取り組みを進めている。</li> <li>区実務者代表者会議が、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、令和2年度以降、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が繰り返し発出されていたため、参集形式での開催が難しかった。</li> <li>令和4年度に区社協と打合せ会議を開催し、要綱策定に向け協議を行い、実施要綱(案)及び構成メンバーについて協議を行い、年度内に開催していく。</li> <li>今後、最低年1回定例開催し、必要に応じた開催をめざす。</li> </ul>	C		
⑤ 虐待防止と権利擁護支援	<p>A 成年後見制度の利用促進</p> <p>【保健福祉課(高齢福祉)】</p>	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>権利擁護が必要となった時に、速やかに窓口につながるようにする。</li> </ul>	<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報「すみよし」で周知し、区民や関係機関からの問合せに対応している。また、区のホームページは、市のホームページとリンクさせており、リンク切れがないようにしている。</li> <li>高齢虐待通報受理件数が、コロナ禍で問題が複雑化していることもあり増加しており、それに伴い、成年後見制度受理件数も増加している。</li> <li>速やかに窓口につながっていると思われるが、件数増で事務が繁忙となり、実際に後見人につながるまでの時間がかかるようになってきている。スムーズに事務処理を進められるよう努めている。</li> <li>地域包括支援センターが行う総合相談や地域ケア会議にて、制度利用が必要な事案に対して後方支援を行っている。</li> </ul>	B		

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった



	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
B 福祉避難所等連絡会の開催 【地域課】	【到達目標】 年2回福祉避難所等連絡会を開催し、情報共有及び災害対応力の向上を図る。	【総括】 ・令和4年度の第1回では、福祉避難所と緊急入所施設の違について改めて共有するとともに、各施設のBCPの作成状況等を共有し、防災ディスカッションを実施した。 第2回では、佛教大学より講師を招いて『福祉避難所(福祉施設)におけるBCPの作成について』講義を受ける事で、福祉避難所等の災害対応力の向上につなげる事ができる。 また、施設と連携し福祉避難所開設運営動画を作成(今年度末完成予定)しており、次年度の福祉避難所等連絡会で披露し、各施設での訓練を充実させる。	B			
C 社会福祉施設連絡会等とのネットワークの強化 【地域課】	【到達目標】 ・防災に関する体験や災害時に支援や配慮を必要とする方々との交流を通じて、みんなで災害への備えを考える防災イベントを開催する。	【総括】 ・令和4年度は防災イベント「あそぼうさい まなぼうさい おたがいさまの防災」開催にあたり、実行委員会を3回実施し、関係機関と事前打合せを行っているため、スムーズに開催ができた。 区広報紙への掲載や町会掲示板へのポスター掲示などにより広報していたが、コロナ禍でもあり大々的な広報ができていなかったため、来場者が少なかったことが課題である。次回の出展内容や広報の方法を実行委員会で検討する。	B			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
B…目標又は目標相当を達成できた  
C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
(4) 地域福祉活動の担い手の層を厚くする取組み						
① 福祉教育・ボランティア活動の取組みの拡充						
A 区民への地域活動・社会参加の促進講座・研修の開催支援  【区社会福祉協議会】	<b>【到達目標】</b> ・講座・研修会の開催により、参加者が自主的な活動に取り組むことを支援していく。また、講座・研修会の参加者同士の交流の場やグループ化に向けた支援をしていく。 ・地域福祉活動に関心が高まる講座が開催できるよう区民のニーズや地域の動向等の情報提供、情報共有を行う。	<b>【総括】</b> 新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出をされており、各ボランティアやボランティアグループが中々活動できない中、また施設側の受入れの問題やボランティア自身の感染予防の意識からボランティアの活動自体が難しくなった。けれど、コロナ禍での感染対策の工夫や活動の形態を変更についての情報提供を行うことで、ボランティア活動の継続の支援を行うことができた。各種講座についてはコロナ禍ということもあり、特に令和3年度については、複数回実施の講座を「入口講座」の1回講座として開催するなど、開催形態や内容を工夫するなど講座開催を行った。	B			
B 福祉教育の実施支援  【区社会福祉協議会】	<b>【到達目標】</b> ・相互に学びのある福祉教育の実践ができている。また、他の社会福祉団体とも協力して実践することにより、互いの良い所なども学び、取り入れていっている。 ・講師ボランティアとの交流会ができ、様々な福祉教育の実施ができている。 ・実施にあたっては区社協内での情報共有をすすめるながら、新たな協力者・協力団体への声かけを検討する。	<b>【総括】</b> 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、学校運営も安定しない中、福祉教育の依頼が減った。令和4年度に入り、コロナ禍2年目ということもあり学校、ボランティア団体も感染に対する知識も増え、十分に感染対策を行い、改めて校長会・教頭会で周知活動をおこない依頼の件数も戻ってきており、福祉教育を開催することができた。 大阪公立大学へ車いす10台貸出し、学生を対象とした体験教育やあびこ病院へ高齢者疑似体験セット2組貸出し、職員対象の院内学習会など新たな福祉教育の場が広がった。 また、建国小学校、長居小学校で視覚障がい者への理解と手引き体験の実施、手話体験教室の実施、住吉小学校で聴導犬ユーザーへの理解を深めるお話の実施などコロナ禍ではあるがボランティアグループの方や当事者団体の協力もあり、福祉教育での活動につながった。	B			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
C ボランティア交流会の開催支援 【区社会福祉協議会】	<p><b>【到達目標】</b>                      ・まちづくり交流ライブの開催を通じて、地縁型・テーマ型の協働事業例が新たに生まれ                      ・ボランティア同士の交流により情報交換や活動の活性化を図る。</p>	<p><b>【総括】</b>                      新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されていたが、ICTの活用、様々な感染対策をおこない、ほぼ予定どおりの交流会、イベント等の開催ができた。                      コロナ禍での活動についてICTの活用や感染対策を工夫し、参加者同士の交流やネットワークができた。                      PDCAを意識し、今年度の取り組みに生かせるよう昨年度実施した活動や講座等のアンケートまた、直接ボランティアからの意見をもとに講座・研修会等の計画をたてた。ボランティアセンター運営委員会では新委員も加わり各委員からの活動状況報告(苅田子ども110番の家のまち歩き、住吉区の子ども食堂など)情報共有や事業報告については活動が目に見えてわかるようなものがあればなどご意見をいただいた。まちづくり交流プランでは昨年実施した子どもまち歩きや新たな取組み(古地図でまち歩き)等を新たなメンバーに参画してもらい実施した。学校、地活協、ボランティアが協働する形がうまれている。</p>	B			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
(5) 多様な協働(マルチパートナーシップ)による地域づくり						
① 地域包括ケア体制づくり						
A 在宅医療・介護連携の推進 【保健福祉課(高齢福祉)】	<p>【到達目標】</p> <p>医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるように、地域における医療・介護の関係機関が連携し、包括的かつ継続的な医療・介護の連携体制の構築を進める。</p> <p>具体的には「住吉どらやきの会」の多職種連携のフィールドづくりに協力参加するとともに、医療機関などへ地域座談会への参加を呼びかけ、地域における医療・介護の関係機関の連携を促し、包括的かつ継続的な医療・介護の連携体制の構築を進める。</p>	<p>【総括】</p> <p>令和3年も新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出され、令和4年も引き続き行動制限が出されるような状況が続いた。</p> <p>そのような状況ではあるが、医療と介護の専門職が協働し合える場の支援と、高齢者が最後まで安心して住み慣れた地域で暮らせる仕組みづくりの支援に継続して取り組んできた。</p> <p>具体的には、医療・介護連携推進会議の開催(年3回)、市民向け講演会の開催(年1回)、専門職向け研修会の開催(年1回)などを行ってきた。</p> <p>令和3年度以降、「人生会議(ACP)」の普及啓発に取り組み、令和3年度には専門職向け研修や、小地域での市民向け啓発の実施に取り組んだ。</p> <p>令和4年度には、地域で高齢者支援に取り組む方々や市民への「人生会議(ACP)」の普及啓発を目的として講演会を開催した。また、「医療と介護のあんしんマップ」の改訂版発行にも取り組んだ。</p> <p>今後とも、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるように、地域における医療・介護の関係機関が連携し、包括的かつ継続的な医療・介護の連携体制の構築を進めていく。</p>	B			
B 地域包括支援センターの認知度の向上・運営の充実 【保健福祉課(高齢福祉)】	<p>【到達目標】</p> <p>・地域包括支援センターが高齢者の総合相談窓口として認識できるよう支援する。</p>	<p>【総括】</p> <p>地域包括支援センターは、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように、専門の職員がさまざまな関係機関と協力しながら、高齢者の支援を行っている。</p> <p>区役所は、地域包括支援センターの認知度の向上として、広報「すみよし」に年1回掲載し、2階保健福祉課待合フロアに、包括・ランチが作成した各々の機関の周知リーフを配架中。普段活動では総合相談や虐待対応、包括連絡会、地域ケア会議で、また、年3回の運営協議会を通じ、運営の充実を図っている。</p>	B			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
<p>C 生活支援コーディネーターによる地域福祉の活性化</p> <p>【区社会福祉協議会】</p>	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な主体と連携し、高齢者が主体的に健康づくりに取り組み、さまざまな機会での活躍できる地域づくりを支援する。</li> <li>・ICTの活用に向けて、老人クラブと連携して高齢者向けのスマホ教室を開催する。また大学や地域と連携して、高齢者の継続的なスマホの活用を支援する。(場づくりを含む)</li> <li>・テイクアウトプログラムを実施し、新たな担い手の創出や設置個所の拡大を行う。</li> <li>・生活支援コーディネーターのリーフレット作成やSNSの活用により、情報発信につとめる。</li> <li>・男性の社会参加を促進するため、老人福祉センターと連携した企画を実施する。</li> <li>・百歳体操など新たな活動の場の立ち上げ支援を行う。</li> </ul>	<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、十分に感染対策を行い、様々な事業について予定どおり行えた。</li> <li>・各地域の活動の再開支援、活動の場の継続支援を行うことができた。また、高齢者のフレイル予防含む取組みとして、地域の社会資源とのマッチングを行い、新たな居場所づくりができた。</li> <li>・2層生活支援コーディネーターが配置され、各地域での活動について情報共有を目的に住吉区全地域合同での第2層協議体会議を開催した。</li> <li>・2層コーディネーターによるボランティアグループや企業、NPO法人など地域の社会資源のマッチングでwithコロナの活動が継続できている。</li> <li>・生活支援コーディネーターの業務をを理解してもらうため、リーフレットを作成し、9月に発行できた。また、広報誌「社協だより」にてSNSの活用等社協のICTの取組みについて情報発信した。</li> <li>・スマホ教室を各地域単位で定例開設した。(2地域)</li> <li>・スマホボランティア養成講座を開催し、修了生に地域のスマホ教室等へ派遣できた。</li> <li>・令和2年度に開催したZoom研修会等Zoomの活用をフォローすることにより、オンラインでの会議やイベントに地域の方が参加していただくことができた。</li> <li>・高齢者のあらたな居場所として百歳体操の新規立ち上げを数カ所で行えた。</li> <li>・テイクアウトプログラムを通して外出を自粛している高齢者へのアプローチを行うことができた。また、地域の支援事務所等での配布を行い、配布場所の拡大につながった。</li> <li>・専門職、地域包括支援センターとの連携が進み、圏域のニーズにあった活動(会議での情報発信、ケアマネジャー向けICTの活動の講習会など)に取り組むことができています。</li> </ul>	A			
<p>② 社会福祉法人による公益的取り組み</p> <p>A 社会福祉施設連絡会との連携</p> <p>【保健福祉課(地域福祉)】</p>	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人が実施する、新たな福祉人材の育成などの公益的な取り組みについて支援する。また、新たな取り組みが生まれるよう社会福祉施設連絡会と意見交換を行い、公益的な取り組みを地域につなげていけるよう社会福祉施設連絡会と連携する。</li> </ul>	<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度より社会福祉施設連絡会として、「住吉区合同人材の育成における研修制度」を立ち上げ、令和3年2月に第1回知的障がい者ガイドヘルパー養成講座が開催され、22名が参加された。</li> <li>・令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、年度内は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されていたため、参集形式の研修会等の開催が難しく、人材育成の取り組みが実施されなかったが、4月9日・10日にガイドヘルパー養成講座が開催され、8名が参加された。</li> <li>・また、「福祉を知る」をテーマに高校・大学生を対象に「福祉の職場見学ツアー」令和4年8月5・6日で開催され、10名の学生が参加された。</li> <li>・区子ども・若者育成支援事業からの自立に向けた緩やかな就労先としての連携に向けて議論を進め、令和4年度2名が就労されている。</li> </ul>	B			

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった

	ビジョンにおける理想の状態 (到達目標)	実施者評価		委員評価		次期ビジョンの修正事項 加えるべき事項
		評価コメント	評価	評価コメント	評価	
③ ビジネス的手法の導入支援	<p><b>【到達目標】</b>                      ・人と人とのつながりづくりの促進、地域コミュニティの活性化、自主財源の確保を目的に、地域が抱える様々な課題を地域住民が主体となってビジネスの手法で課題解決に取り組むCB/SB、社会的ビジネス化を推進する。</p>	<p><b>【総括】</b>                      ・区地域福祉ビジョンの計画期間(令和3年度から)において、それまでに地域が実施していたCB/SBの10件から、地域活動協議会会長会での情報提供や未実施地域への働きかけを継続的に行うことで、新たな取組であるペットボトル回収事業を含む5件の創出ができ、令和4年度末の実施件数は15件となった。                      ・上記のとおり推進し、地域においてもCB/SBへの関心はあるものの、依然として採算性や担い手不足等の問題により事業実施に結びついていない地域もあるため、引き続き、実施している地域の情報を共有し、事業実施に向けた支援を行う必要がある。</p>	<b>B</b>			
	<p>A CB/SB社会的ビジネス化の 推進〔計画〕</p> <p>【政策推進課】</p>					

評価:A…目標又は目標相当を上回る実績があった  
 B…目標又は目標相当を達成できた  
 C…目標又は目標相当を達成できなかった